

糖尿病重症化予防（フットケア）研修 研修会 開催要領

主催 いわて糖尿病療養指導士会

- 1 目的 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解し、評価法と実践の技術を身につける
- 2 目標 (1)糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する。
(2)糖尿病患者の足病変の病態生理、治療を理解する。
(3)糖尿病患者へのフットケアのための評価方法を学ぶ。
(4)糖尿病患者へのフットケアの技術を学ぶ。
(5)糖尿病患者の事例検討を通して、フットケアにおけるセルフケア支援を理解する。
(6)予防的フットケアを実践するためのシステム構築について考えることができる。
- 3 期間 2021年1月16～17日（2日間）
- 4 開催会場 プラザおでって「盛岡市観光文化交流センター」
〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1番10号
- 5 定員 20名
- 6 受講対象 (1)糖尿病足病変患者の看護に従事した経験を5年以上有し、研修終了後、その業務に携わる予定の看護師であること。
(2)全日程（2日間）受講できること。
(3)所属長の推薦があること。
(4)保健師・助産師・看護師
※応募者が定員を超える場合は、いわて療養指導士会内で人数調整する。
- 7 修了証 ・本研修は、「糖尿病合併症管理料」算定要件内の「糖尿病足病変に係る適切な研修」に該当し、全日程・全プログラムを受講した者に修了証を交付する。
・欠席・遅刻・早退は認めないものとする。
- 8 受講料 30,000円
(消費税含む) ※受講決定者へ受講決定通知を郵送いたします。
振込先を明記しますので、振込期日までにお振込ください。
※振込期日まで振込ができない場合は、必ず連絡先までご連絡ください。
※振込後、欠席等による返金はいたしかねます。(開催中止の場合は返金致します)
- 9 持参物品 詳細は<別紙1>を確認の上、各自で準備してください。
- 10 携帯品 ・受講決定通知（受講者氏名記載の開催要領）を必ずご持参ください。

11 昼食は各自ご用意ください。

12 申し込み方法 受講条件を確認し、受講申込書へ必要事項を記入してください。
84円切手を貼付した返信用の封筒（長型3号）を同封の上、12月15日必着で、受講申込書在中と朱書きで記載し下記住所へ郵送でお申込みください。

郵送先 〒020-0066 岩手県盛岡市上田一丁目4番1号
岩手県立中央病院 糖尿病・内分泌内科外来
いわて糖尿病療養指導士会 研修担当 高橋 雅代 行

13 連絡先 いわて糖尿病療養士会 研修担当＜重症化予防（フットケア）研修＞
岩手県立中央病院 糖尿病・内分泌内科外来 高橋 雅代
TEL:019-653-1151（内線5368） 平日8:30～17:15

※当日の遅刻・欠席につきましては、受講決定通知の記載連絡先へ必ずご連絡ください。

14 プログラム <別紙2>

15 講師・ファシリテーター

(氏名) (所属)

講義1.6	菊池 美千代	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター	糖尿病看護認定看護師
講義2	橋本 朋子	岩手県立中央病院	糖尿病・内分泌内科医長 糖尿病専門医
講義2	森 康記	岩手県立中央病院	皮膚科長 皮膚科専門医
講義3.4	高橋 雅代	岩手県立中央病院	糖尿病看護認定看護師
講義5	君成田 大	岩手県立軽米病院	糖尿病看護認定看護師

<演習ファシリテーター>

演習1～6	大下 咲子	岩手県立中央病院	日本糖尿病療養指導士
	荻野 絢子	岩手県立中央病院	日本糖尿病療養指導士
	箱石 恵子	岩手県医療局	日本糖尿病療養指導士

16 感染対策について

新型コロナウイルス感染症予防について、本研修では以下の通りに感染予防対策を講じる予定です。

<会場について>

- ・本研修では、研修会場の収容人数を定員の半分以下としています。
- ・受付時は対面としないよう対応します。
- ・人と人との間隔を1m以上あけ、距離に配慮して席をレイアウトします。
- ・研修会場への入退室時は、設置した手指消毒薬をお使いください。
(アルコールアレルギーの方はご自身で手指消毒剤の準備をお願い致します)
- ・定期的に換気を行います。室温の低下が予想されますので防寒等準備をお願いします。
- ・感染予防上、施設の給湯室は使用禁止となっておりますのでご了承ください。

- ・昼食時は会場内、会場前のホールを利用するなど密集空間を避けられるよう準備いたします。

<研修受講者について>

- ・受講者は県内在住者に限ります。
- ・研修2週間前から体温測定等健康観察と感染防御を徹底するようお願いします。
また、研修2週間前からの県外への訪問を控え、3密（換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・間近で会話や発声をする密接場面）を避けていただくようお願いします。
- ・研修直前の体調不良、発熱や呼吸器症状等が出現した際は、研修に出席せず事前にご連絡ください。
- ・当日は全員マスクの着用をお願い致します。

<講師について>

- ・研修受講者についての内容に加え、講義の際はマスク着用・必要によりフェイスシールドの着用も検討いたします。
- ・受講者と対面にならないように配慮し、講義の際は2 m以上の距離を取るよう配慮いたします。

※新型コロナウイルス感染症拡大状況を注視し、開催を中止する場合は受講者へ速やかに連絡し納入後の参加費については返金致します。

1 指定図書

糖尿病看護フットケア技術 第3版：一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会編，
日本看護協会出版界，2013年発行

（当日、会場での販売は致しませんのでご了承下さい）

2 演習用物品

- 1) バギンスキー式打腱器
- 2) モノフィラメント（足用、サイズ：5.07）
- 3) アルミ音叉（C-128Hz）
- 4) 秒針付き時計
- 5) 爪用ゾンデ（サイズ17cm）
- 6) 爪切りニッパー
- 7) コーンカッター（刃を含む）
- 8) ガラス爪やすり
- 9) レデューサー
- 10) 医療用ゴーグル
- 11) タオル

※演習に際し、足の爪を切らずに参加してください。（目安1か月半程度）

※物品は予備を準備いたしますが数に限りがございますので、できる限りご持参ください。

糖尿病重症化予防（フットケア）研修 研修会プログラム					
9：00～9：10 オリエンテーション					
	時間	講義・演習	テーマ	ねらい	内容
1月16日 (1日目)	9：10～10：10 60分	講義 1	糖尿病患者の療養を支えるフットケア	看護師が行う糖尿病患者への予防的フットケアは、一方的に患者の足のトラブルの有無をチェックし、必要な手当てを提供するというのではない。患者の糖尿病や足の状態を捉える共に、セルフケア状況までを含めた評価（アセスメント）を行ったうえで、その患者に適したフットケアの方法を考え、継続的に実践していくセルフケア支援のプロセスである。このような糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する。	1. 糖尿病患者への足への関心 2. 足の状態を共通理解するための働きかけ： 足を見る、足に触れるということ 足を見るのを促す、足に触れるのを促すということ 3. 足のケアを通して患者の生活を理解すること 4. 療養を支えるフットケア～継続していく大切さ 5. チーム医療における看護師が行うフットケアの意味
	10：20～12：20 120分	講義 2	糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで	糖尿病患者の足病変、病態生理、治療、検査について理解する	1. 糖尿病足病変の病態生理 2. 糖尿病神経障害の検査 3. 血流障害の検査 4. 糖尿病足病変の治療
	13：10～14：40 90分	講義 3	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント①	糖尿病患者の足の状態、全身状態、生活状況、セルフケア状況を理解し、患者の足の状態と取り巻く状況を含めてリスクをアセスメントできる	1. アセスメントとは 2. 記録用紙の使い方と意味 3. 糖尿病患者のハイリスク評価 4. 足の状態を捉える皮膚の状態、神経障害、血流障害、生活状況 5. 全身状態を捉える姿勢、歩き方、高血糖、低栄養、免疫力 6. セルフケア状況の把握足への関心 フットケアに対する理解 足の問題に関する経験生活習慣 サポートパターン 7. 生活状況を捉える足への負荷の状況・仕事 靴の選択 清潔習慣
	14：50～15：20 30分	講義 4	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント②	アセスメントの統合と足病変リスク評価に伴う課題抽出過程を理解する	アセスメントの統合 足病変のリスク評価 課題の抽出過程の解説
	15：30～17：10 100分	演習 1	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント	糖尿病患者へのフットケアにおける足の状態のアセスメント及び、足病変のリスク評価の技術を学ぶ	1. デモンストレーション（研修担当） 2. 参加者がペアになり演習 ・姿勢、歩き方、足の外観を捉える、知覚および血流の状態、靴や靴下の観察 ・生活状況、足の手入れの状況の確認 ・フットケア記録用紙の活用 ・足の状態をアセスメントする ・足病変のリスクを評価する
	17：20～19：00 100分	講義 5	フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援	糖尿病患者の置かれている状況やリスクの評価を基に、その患者に適したフットケアの実践ができ、セルフケア支援につなげることができる	1. 予防のための方法 清潔を保つ 乾燥を防ぐ 感染を防ぐ 蒸れを防ぐ 圧迫、ずれを避ける 2. セルフケア支援のためのポイント
	19：10～19：20 10分	演習 2	事例分析と評価①	事例を展開し、フットケア計画の立案につなげることができる	事例の説明
1月17日 (2日目)	9：10～11：20 130分	演習 3	フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援	糖尿病患者のフットケアの予防のためのセルフケア支援技術を経験し、身につける	1. デモンストレーション（研修担当） (1) 患者の足を見る、触れる (2) アセスメントをする (3) 必要なケア内容を検討する (4) 処置を行う ①ゾンデの使用法 ②ニッパー、ヤスリによる爪のケア ③コーンカッターの使用法 ④レデュサーの使用法 ⑤保湿 5) セルフケアに向けての支援 2. 参加者がペアになり演習
	11：30～13：10 100分	演習 4	事例分析と評価②-アセスメントと問題点の抽出	足病変のハイリスク状態にある糖尿病患者の事例を通してフットケア計画を立案する-アセスメントから問題点の抽出ができる	事例検討（グループディスカッションと全体討議）
	14：00～16：00 120分	演習 5	事例分析と評価③-ケア計画立案	足病変のハイリスク状態にある糖尿病患者の事例を通してフットケア計画を立案する～看護問題から課題と具体的なフットケア方法を立案する	事例検討（グループディスカッションと全体討議）
	16：10～16：50 40分	演習 6	まとめ 今後の糖尿病重症化予防（フットケア）の活動に向けて	自施設において、フットケアを実践するための方法を考える	自施設における、今後のフットケア活動計画を立てる
	17：00～18：00 60分	講義 6	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題を理解し、予防的フットケアを実践するためのチーム及びシステム作りを考える	1. 平成20年度診療報酬における糖尿病重症化予防（フットケア）の位置づけ 2. 予防的フットケアを実践するためのチーム医療及びシステム作り
<講師>					
	(氏名)	(所属)			
	講義 1.6	菊池 美千代	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター	糖尿病看護認定看護師	
	講義 2	橋本 朋子	岩手県立中央病院 糖尿病・内分泌内科医長	糖尿病専門医	
	講義 2	森 康記	岩手県立中央病院 皮膚科長	皮膚科専門医	
	講義 3.4	高橋 雅代	岩手県立中央病院	糖尿病看護認定看護師	
	講義 5	君成田 大	岩手県立軽米病院	糖尿病看護認定看護師	
<演習ファシリテーター>					
	演習1～6	大下 咲子	岩手県立中央病院	日本糖尿病療養指導士	
		荻野 絢子	岩手県立中央病院	日本糖尿病療養指導士	
		箱石 恵子	岩手県医療局	日本糖尿病療養指導士	